

大 阪 市 中 教 研 会 報

No. 145

編集者 大阪市立中学校教育研究会

発行人 大阪市立中学校教育研究会

会長 上 田 健 二

発行所 大阪市立中学校教育研究会

大 阪 市 立 友 渕 中 学 校

TEL 06-6928-1970

令和 6 年度 研究テーマ

「持続可能な未来社会の創り手となる資質・能力の育成」

～ ウェルビーイング・探究学習・総合的読解力 ～



「持続可能な未来社会の創り手となる資質・能力の育成をめざして」

大阪市総合教育センター

所 長 富 山 富 士 子

大阪市立中学校教育研究会におかれましては、平素より、本市中学校教育の推進に多大なご尽力を賜り誠にありがとうございます。

会員の先生方におかれましては、「持続可能な未来社会の創り手となる資質・能力の育成 ～ウェルビーイング・探究学習・総合的読解力～」のテーマのもと、各教科・領域での理論構築と調査・研究や授業実践等の研究会諸活動に取り組み、本市中学校教育の充実・発展に大きな役割を果たしていただいております。これまでのご功績に深く敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

さて、本年 4 月より、大阪市教育センターは、「大阪市総合教育センター」と名称を変え、大阪教育大学天王寺キャンパス内に移転しました。本センターの名称は、研修機能のみならず、研究や産官学連携等、様々な取組を通じて「総合的に」教員をバックアップする施設として機能を拡充・強化するとともに、ICT や学力向上、大学連携を含め、教員育成・授業改善等に関わる局内の担当が集結し、連携しながら「総合的に」施策を進めていくことが由来となっております。

「大阪市総合教育センター」として機能を拡充した部分は、主に次の 5 点です。

- 1 養成・採用・研修の一体化：これまでは採用後の研修が中心でしたが、採用前に複数の研修を開催し、新任教員の不安を払拭して参ります。
- 2 教育データ活用を基盤とした調査分析を行うシンクタンク統括室の設置：多様化・複雑化する教育課題の解決に向け、実態把握や現状分析からエビデンスに基づいた効果的な教育施策を企画立案します。
- 3 理論と実践の往還を実現する研究校等の設置：大学の知見や理論を活用し、理論と現場の実践を往還させつつ、学習プログラムや独自教材の開発を行い、教育施策への還元につなげます。
- 4 多様な大学や企業と連携する組織「OEN

(Osaka city Education Network)」の設置：大阪の教育を応援してくださる大学・企業等と連携し、その専門的知見を各校で活用できるシステムを構築します。

- 5 シナジースクエアの創設（6 階）：「OEN」の組織に属する企業等と連携したイベントや経験年数の少ない教員等の相談会等を開催します。

このように、「大阪市総合教育センター」は、これまで以上に「学びに、出会いに、情報収集に行きたくなる総合教育センター」として、様々な角度から皆様の教育活動を支援してまいります。

本研究会におかれましては、昨年度より「ウェルビーイング・探究学習・総合的読解力」というキーワードを研究テーマの副題に掲げ、総合的読解力育成に向けた教材作成等にもご尽力いただきました。「総合的読解力」は、「情報を正しく読み取り要約することに加え、読み取ったものから考えを形成すること、さらにその考えを表現するとともに、交流してその考えを広めたり深めたりすること、これらができる力」であり、教科横断的に必要とされる汎用的な読解能力です。この力の育成により、探究的な学習を下支えする力が伸長し、探究的な学習そのものも、より充実していくことが期待されます。また、自ら主体的に課題を発見し、その課題に対する最適解を導くために、自分の考えを論理的に整理し、他者と協働的に議論していくことで、持続可能な未来社会のウェルビーイングが達成されるのではないのでしょうか。

新しくなった「大阪市総合教育センター」を存分にご活用いただきながら、子どもたちの資質・能力の育成に向け、共に研究を推進していければ幸いです。

最後になりましたが、大阪市立中学校教育研究会のますますのご発展を祈念いたしますとともに、教員の研究活動を活性化する取組を通して、よりよい未来の創り手となる子どもたちの育成をお願いいたします。



教育現場にウェルビーイングを

大阪市立中学校教育研究会

会長 上田 健二（友渕中学校）

大阪市立中学校教育研究会は創立77年目となります。この間、自主的、創造的な研究活動や教育実践を根強く諸先輩方が苦労を重ね、その時代の課題に立ち向かい、偉大な業績を残されてきました。その伝統を継承し今日的な新たな時代の課題を解決し、さらに発展させていく責任感・使命感を強く持ち、今年度の事業計画に基づき達成に向け尽力していきます。

そのためには、評議員の各教科領域の部長先生や各ブロック委員長、副委員長の先生をはじめ、各専門委員の先生方はもとより会員の皆様のご協力が必要となります。どうぞよろしくお願いいたします。

さらに教育委員会、総合教育センター、校長会、教育に携わる関連団体との連携を深め、より一層、研究活動を推進していきたいと思っています。

今年度も、各校では、学習指導要領に基づく教育課程・指導計画の編成、評価の改善にも取り組まれていることと存じます。

今年度も、本研究会では「学校のグランドデザイン」を基盤とする「カリキュラム・マネジメント」を通して、昨年同様、継続して『持続可能な未来社会の創り手となる資質・能力の育成』を研究テーマとし、その内容のキーワードを「ウェルビーイング」・「探究学習」・「総合的読解力」とし事業を推進してまいります。

特に、社会でもウェルビーイングという言葉は、様々な場面で、使われるようになりました。教育では、身体的、精神的、社会的に良い状態にあることといい、短期的な幸せのみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含みます。多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取

りまく場や地域、社会が感じられる良い状態であることです。生徒たちのウェルビーイングを高めるために、生徒主体で生きがいをとらえられる教育を目指して、様々な願いを込めて、このテーマを継続したいと考えています。

つぎに、コロナ禍で中止や縮小を余儀なくされてきた、ブロック研究発表会や全市研究発表会をはじめ様々な研修や発表会も以前のように開催できるようになってきました。特に各教科領域部長先生や各ブロック委員長の先生方のリードのもと、研究発表の形態や公開授業の工夫、研修会の開催など、会員の先生方の期待に少しでもこたえ、魅力ある研究組織になるように鋭意努力されているところです。なお一層の会員の皆様のご理解とご協力、日々の教育実践における研鑽をお願いいたします。

また、各研究部の深化・充実に向け準備されている活動の予算面等でもできるかぎりご支援させていただければと思います。

さらに、各学校現場で日々直面している学力・体力の向上、不登校対策、学習指導要領に基づく教育課程・指導計画の編成、評価の改善、働き方改革など多くの課題の克服も必要かと思ひます。会員の先生方には、ぜひとも本研究会に参加していただき、これまで本研究会が受け継いできました刊行物を参考に、互いの資質や指導力の向上に努めていただきたいと思います。そして、教育に携わる喜びや達成感を共に分かち合い、子どもたちとともに「ウェルビーイング」の向上に努めていきたいです。

今後ともより一層のご理解とご協力そしてご鞭撻を心よりお願いいたします。

新部長のあいさつ

国語部

「生きる力」としての国語力の育成 — 自分の思いや考えを深める言語活動の充実

～インプットからアウトプットへ～

堀田 千秋（日本橋中学校）

大阪市の子供たちの読解力を育成するために国語科の役割は大きい。今年度の研究テーマは、昨年度から引き継いだものであるが、国語科として生徒に読解力を身につけさせるための方略を改めて見直すことは喫緊の課題と考えている。汎用的な読解力の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成を意識した授業の研究を推進するとともに、若手育成にも注力していく。

文学的文章の読解においては、生活言語で書かれた

叙述を丁寧に読み取っていく中で空白を読みとる力、説明的文章の読解においては、学習言語と図表などの関連性を意識しながら早く正確に読み取る力の育成を目指していく。

これまでの国語科の役割と大きく変わることはないが、インプットした内容をさまざまな手段を用いてアウトプットする力まで引き上げる授業研究に取り組み、国語力の育成に努めてまいりたい。

音 楽 部

「音楽的な見方・考え方を働かせ、感性を育む音楽教育」

ー主体的・対話的で深い学びの実現に向けてー

安 藤 寛 (大領中学校)

昨年度は皆様にご協力いただき、第 65 回近畿音楽教育研究大会 大阪大会を成功に終えることができました。前回大会から 6 年間、研究授業を重ね発表されましたが、私たちは、ここで立ちどまることなく今年度、研究主題を新たに研究を進めてまいります。音楽科教員の授業力・指導力の向上に向け、次の 3 つの視

点 ①主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ②生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識や、音楽文化についての理解を深める学習の充実 ③授業改善のための指導と評価の一体化 で研究を推進します。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

英 語 部

「4 技能 5 領域の総合的な能力向上」

～ 2025 大阪万博でコミュニケーションが取れる生徒の育成をめざして ～

田野原 千 佳 (西淀中学校)

令和 2 年度から小学校で新しい学習指導要領が実施されたことにより、小学校 3 年生から「外国語活動」を、小学校 5 年生から「外国語」を合計 210 時間学習した生徒たちが、中学校に入学してきました。これまで以上に小学校での学びを中学校でうまくつなげられるよう、「主体的・対話的で深い学び」を軸に、小中連携を図りながら「英語学習の楽しさ」を伝えられるよう英語部では授業研究を進めているところです。

さて、中央教育審議会の答申にもある「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」にとって、コミュニケーションツールの 1 つで

ある「英語」は非常に大きな役割を果たすこととなります。

また、来年にはいよいよ「大阪・関西万博」が開催されます。研究主題にもあるように、積極的なコミュニケーションを通して、様々な国や地域の人々と触れ合い、一人ひとりが互いの多様性を認めあうなど、広い視野からの国際理解を深められるよう、研究活動に励んでまいります。

今後とも英語部の活動にご理解、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

情報技術部

「カリキュラム・マネジメントの充実をめざして」

～新学習指導要領を見すえ、社会に開かれた教育課程の確立～

西 中 善 彦 (茨田北中学校)

情報技術部は、統計教育部・新聞教育部・情報教育部の 3 つの部門が統合して、約四半世紀になります。これまでそれぞれの活動をもとに、それぞれの特色を生かした研究発表を行ってきました。領域の垣根を超え、3 部門が連携した取り組みを実施してきました。今年度は、統計教育部門として、総務省が実施する

『統計教育指導者講習会』に参加し、その内容の伝達および教育現場における活用について発表する予定です。また、新聞教育部門として、今後の N I E 教育のあり方について研究し、発表する予定です。そして、情報教育部門として、統計教育部門と連携し、I C T を活用した新しい教育教材を提案していく方向です。

本部だより

令和 6 年度 大阪市立中学校教育研究会全体会 5月22日(水) 大阪市総合教育センター 10階研修室で実施しました。

研究主題

「持続可能な未来社会の創り手となる資質・能力の育成」
～ ウェルビーイング・探究学習・総合的読解力 ～

ブロック研究発表会 基準日 2・3ブロック 8月28日(水)
1・4ブロック 8月29日(木)
全 市 研 究 発 表 会 10月 9 日(水) 開催

《事業の種類》

- ① 学校のグランドデザインを基盤としたカリキュラム・マネジメントの推進
- ② 研究部・ブロック委員会の研究活動の深化・充実
- ③ 全市研究発表会の推進と研究・研修活動の充実
- ④ 「中教研会報」・「研究の歩み」の内容の充実、研究活動の動向や成果の伝達
- ⑤ 教育委員会・総合教育センター・校長会・小学校教育研究会等、関係団体との連携

《当面の課題》

- ① 学習指導要領に基づく教育課程の編成と基礎学力の充実についての研究
- ② 総合的読解力育成（「小中学生からのリベラル・アーツ教育」）についての研究
- ③ ウェルビーイング、個別最適化学習・探究学習についての調査・研究
- ④ 資質・能力の向上を促す、指導・評価方法の工夫・改善についての研究
- ⑤ 教育DX（デジタル・トランス・フォーメーション）にもとづく教育の推進
- ⑥ いじめ・いのちの教育、不登校、問題行動の研究
- ⑦ 各研究部・各ブロック・各学校における研究体制の整備
- ⑧ 小中が連携、一貫した教育についての研究
- ⑨ 課題に応じた研究部組織の改編・新設の検討
- ⑩ 各種研修・研究会への参加を通しての教職員の相互研鑽・課題解決
- ⑪ その他教育上の諸問題の研究

評議員会報告

第1回 5月22日(水) 14時～

於：大阪市総合教育センター 9 階研修室

- (1) 令和5年度 事業報告
- (2) 令和5年度 会計決算報告
令和5年度 会計監査報告
- (3) 令和6年度 事業計画並びに予算案 研究主題
- (4) 連絡事項
 - ① 役員選出について
 - ② 専門委員会での協議事項
 - ③ 今後の評議員会の日程について
 - ④ 会計関係について
 - ⑤ 会報、研究の歩みについて

第2回 6月12日(水) 16時～

於：大阪市総合教育センター 9 階研修室

- (1) 令和6年度 研究活動について
 - ・各ブロックの研究について
 - ・全市研究発表会について
 - ・中教研会報・研究収録「研究の歩み」の発行について
 - ・研修会について
- (2) そ の 他
 - ① 令和6年度 役員・専門委員一覧表について
 - ② 部門別・ブロック別 研究主題・事業計画について
 - ③ 令和6年度 全国・近畿大会予定表について
 - ④ 連絡事項
 - ・総合教育センター直接執行分について
 - ・会費の徴収・納入事務について
 - ・ホームページの更新について

令和 6 年度 部門別研究主題

No.	部 門	研 究 主 題
1	国 語	「『生きる力』としての国語力の育成」 ～自分の思いや考えを深める言語活動の充実～
2	社 会	「一人ひとりの未来につながる社会科の創造」 ～問い・探究、そして参画へ～
3	数 学	「未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして」
4	理 科	「理科の見方・考え方を働かせて、未来を創造する資質・能力を育む理科教育」
5	音 楽	「『音楽的な見方・考え方を働かせ、感性を育む音楽教育』」 ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～
6	美 術	「造形的な見方・考え方を働かせるための学習をめざす」 ～美術が果たす役割を実感させるために～
7	保 健 体 育	「保健体育の授業における学習意欲を引き出し学びの質を高める」 ～陸上競技（長距離走）の指導方法の研究～
8	技術・家庭	「いのち輝く未来社会を実現（創造）する技術・家庭科教育」 ～深い学びへと導く、見方・考え方を働かせた実践～
9	英 語	「4 技能 5 領域の総合的な能力向上」 ～ 2025 大阪万博でコミュニケーションが取れる生徒の育成をめざして～
10	道 徳	「多面的・多角的な視点で考え、議論する道徳教育の創造」 ～グループワークを取り入れ言語力を育てる道徳科授業づくり～
11	特 別 活 動	「生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造」
12	生 活 指 導	「生徒指導上の今日的な課題を把握し、地域・関係機関と連携・協働した効果的かつ組織的な生活指導体制を研究する」
13	特別支援教育	「子どもたち一人一人が、共に学びに向かい 生きる力を育む教育をめざして」
14	保 健 養 護	「養護教諭の専門性と資質の向上をめざして」
15	情 報 技 術	「カリキュラム・マネジメントの充実をめざして」 ～新学習指導要領を見すえ、社会に開かれた教育課程の確立～
16	教育メディア	「『生きる力』と『感動する心』をはぐくむ教育メディアの研究」 ～学校図書館教育、放送・視聴覚教育を通して～

令和 6 年度 ブロック別研究主題・発表会日程

ブロック	研 究 主 題	発表会日程
1 ブロック	「豊かな心の醸成と社会の変化や課題に対応できる資質・能力の育成」 ～「新たな学び」の実践と交流～	8 月 29 日 (木) 基準日
2 ブロック	「主体的で、協働的な学び手を育む教育の創造」 ～「つながり」を生かした学びの場を通して～	8 月 28 日 (木) 基準日
3 ブロック	「豊かな心の醸成と持続可能な社会の創り手としての資質・能力の育成」 ～新しい未来の姿を構想した実践交流～	8 月 28 日 (木) 基準日
4 ブロック	「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための資質・能力の育成」 ～全ての人の可能性を引き出す教育の創造～	8 月 29 日 (木) 基準日

令和 6 年度 役員・評議員

令和 6 年度、役員・評議員が下記のとおり決まりました。（敬称 略）

【大阪市教育委員会】

初等・中学校教育担当	総括指導主事	増田 洋 平
大阪市総合教育センター	指導主事	田 邊 宜 雅

【本 部 役 員】

会 長	上 田 健 二	（友 渕）
副 会 長	大 政 和 彦	（宮 原）
同	松 田 光 平	（豊 崎）
同	杉 山 邦 彦	（大正中央）
書 記	青 木 泰 侍	（大 桐）
会 計	小笠原 忠 承	（新 生 野）
会 計 監 査	高 橋 章 二	（天 王 寺）
同	小 西 絵 美	（友 渕）

【本部役割分担一覧】

● 全市研究発表会、 ブロック研究発表会の調整 等	（大 政）
● 企画立案、研究の歩み、会報の編集、 HP担当 等	（松 田）
● 研修計画、教育課程（言語活動）、 小中一貫教育担当 等	（杉 山）
● 名簿作成、議事録作成、 案内状発送、報告書作成 等	（青 木）
● 会計、予算、事業報告書作成、 決算報告書作成 等	（小笠原）
● 会計監査、会場準備、資料配布 等	（高橋・小西）

【部 長】

1	国 語	堀 田 千 秋	（日 本 橋）
2	社 会	小野寺 健	（新 豊 崎）
3	数 学	中 西 啓	（ 佃 ）
4	理 科	谷 塚 高 雅	（加 美）
5	音 楽	安 藤 寛	（大 領）
6	美 術	石 川 文 子	（東 陽）
7	保健体育	阿久津 弘 治	（今 津）
8	技術・家庭	村 上 美津子	（城 東）
9	英 語	田野原 千 佳	（西 淀）
10	道 徳	神 田 敏 生	（夕 陽 丘）
11	特別活動	進 藤 文 代	（墨 江 丘）
12	生活指導	平 尾 仁 志	（美 津 島）
13	特別支援教育	鹿 嶽 昌 彦	（弘 濟）
14	保健養護	河 原 亜 紀	（加 美 南）
15	情報技術	西 中 善 彦	（茨 田 北）
16	教育メディア	田 村 敬 子	（相 生）

【ブロック委員長・副委員長】

第1ブロック委員長	西 村 有 里	（築 港）
第1ブロック副委員長	京 田 哲 次	（新 東 淀）
第2ブロック委員長	松 田 正 也	（ 董 ）
第2ブロック副委員長	楠 井 誠 二	（中 之 島）
第3ブロック委員長	安 藤 寛	（大 領）
第3ブロック副委員長	藤 本 哲	（南 港 南）
第4ブロック委員長	今 垣 清 彦	（田 島）
第4ブロック副委員長	井 寄 芳 春	（田 辺）

令和 6 年度 教育研究会予算

（令和 6 年 7 月 3 日 現在）

1. 歳 入

（単位：円）

項 目	令和 6 年度 予 算 額
会 費	2,000,000（見込み）
補 助 金	※200,000
繰 越 金	2,727,358
預 金 利 息	0
合 計	4,927,358

2. 歳 出

（単位：円）

項 目	令和 6 年度 予 算 額
本 部 事 業 費	2,608,994
研究部事業費	1,838,364
ブロック事業費	480,000
合 計	4,927,358

※日本教育公務員弘済会研究助成金